

刈和野の大綱引き  
 国指定重要無形民俗文化財  
 毎年二月十日

国内最大級の大綱



イラストは押し合いの様子です

交通のご案内



- 秋田新幹線・大曲駅で奥羽線下りに乗り換え、刈和野駅下車
- 秋田自動車道西仙北スマートICよりアクセス道路で刈和野へ

お問い合わせ先  
**刈和野大綱引保存会**  
 〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字愛宕下24-1  
 大仙市立大綱交流館内  
 TEL0187(75)1115 FAX0187(75)0392

綱の直径約80センチ、長さは約200メートル、重さ約20トン。日本最大級の大綱は厳寒の2月10日の夜、古式にのっとり、まちを二分して数千人により引き合われる。左右に振られる提灯と「シヨウヤサノ」の掛け声がある種のリズムを奏でる。渾身の力を振り絞っての引き合いでは、その巨体が雪面から浮き上がるほどだ。波打つ大綱、怒涛のように押し寄せるエネルギー。そして、吐く息と熱気が会場を真っ白に染め、この土地に生まれた者の魂を揺さぶる。「刈和野の大綱引き」は、国の重要無形民俗文化財にも指定されている。



市神様を祀る  
 500余年の伝習

刈和野の大綱引きは室町時代からの伝習であるといわれている。平将門の一族である長山氏が刈和野に土着し、長山氏の氏神が市場を守護する神「市神」であり、その祭事として綱引きが始められたのが由来といわれる。上町、下町、その勝者がその年の市場開設権を獲得といわれているが、現在では上町が勝れば米の値が上がり、下町が勝れば豊作と、その年を占う「お告げ」が下される。

雄綱と雌綱  
 二日町と五日町

平成10年からは開催日を2月10日に固定し行われているが、それ以前は旧暦の正月15日の夜に行われてきた。刈和野地区の中心部、通称「大町通り」と呼ばれる通りで町を二分して行われる。上町を「二日町」、下町を「五日町」と呼んでいる。綱作りはそれぞれが行う。二日町が作る「雄綱」は、その先端が古代中国で生まれた思想である陰陽説の陽(男性)の象徴であり「ケン」と呼ばれる。長さは男の厄年を表す42尋(約64m)で、五日町の「雌綱」は、その先端が陰(女性)の象徴であり、「サバグチ」と呼ばれる。長さは、女の厄年を表す33尋(約50m)ある。大綱作りは開催日の約1ヵ月前から始まり、1週間前にできあがり、大綱は両町内境界の中心「ドップ」付近に飾られる。両綱とも大蛇がとぐろを巻いたように積み上げ、綱の先端は中から出す習わしになっている。市神様の祭事として行われるため、大綱引き当日は、現在市神様を祀っている浮島神社から市神様を奉戴し大綱に安置し、神官がおはらいをして勝負のときを待つ。

**五日町** 雌綱  
 33尋(約50m) 直径約80cm 約10トン  
 豊作



数十分の引き合い  
 きしむ大綱

引き合いの瞬間、地響きにも似た喊声が一斉に上がり、左右に振られる提灯の灯りに合わせながら力の限り引き合われる。大綱がきしみながら波を打ち、一進一退の攻防が数十分続き、勝敗が決まる。

伝統を後世に伝える  
 建元たち

刈和野の大綱引きを主宰する人を「建元」と呼ぶ。大綱引き行事の責任者で二日町、五日町、それぞれの建元たちが取り仕切っている。建元制度は、昔は世襲であったようですが現在では経験豊かな人が選ばれている。

**二日町** 雄綱  
 42尋(約64m) 直径約80cm 約10トン  
 米価



歴史と伝統を誇る  
 大綱引き行事でもっとも劇的な場面。大勢の人々がこの場面を見ようと集まるが最も熟練した建元たちが指示し作業が進む。サバグチに徐々にケンが通され「結び」ができる段階になると声高に叫ぶことや提灯を高く上げることが禁止される。厳粛にして静かなる時が過ぎ緊張しながら引き合い開始のときを待つ。





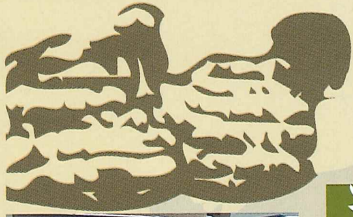
# 一 綱作り



大綱は毎年作られ、作業は約1カ月前から始まる。新しい藁を用い、上下両町内で7000束が使われる。「グミ組み」は熟練した人が約3週間、「綱然い」は町民総出で2日間かけて行われる。



# 二 綱飾り



雄綱と雌綱、それぞれ約10トン。上町・下町の境界の中心である「ドップ」付近に飾られる。



# 三 神事



市神様を大綱のある場所まで運び、安置し神官がご祈祷、お祓いをする。餅まきも行ふ。

# 四 小綱のつげ



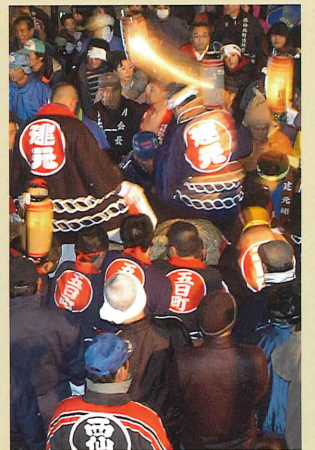
雄綱が二日町へ、雌綱は五日町へ若衆によつてのばされる。そしてそれぞれの大綱には尻綱や小綱が結び付けられる。

# 五 押し合ひ



大綱を結び合わせるために、どちらが先に出すか、どれだけ出すか…、交渉が押し合ひとなる。

# 六 綱の出し合ひ



建元は人の集まり具合を見て「綱の出し合ひ」を指示する。集まった人たちは提灯の振りに合わせて「ジョウヤサノー」の掛け声をかけながら綱を出し合う。

# 七 綱合せ



建元の合図でいよいよ引き合ひが始まる。

# 九 綱の奉納



引き合ひ後固く締まった結び目をほどこき、すべての綱は浮島神社境内に運ばれる。

## 最も緊張する綱引き直前絵巻

## 緊張と静寂の世界「綱合せ」

二日町と五日町の大綱の先端がドップのところまで出されるといよいよ綱合わせ作業だ。危険が伴う作業のため、最も熟練した建元たちが指示しながら進められる。

合わせ方は、五日町の雌綱のサバグチに二日町の雄綱のケンを挿入し、雌綱に一回り巻き付ける「蛇口結び」という結び方で結ぶ。この方法は両方の大綱が引き合うことで結び目が固くなる。

雄綱の挿入が終わり「結び」ができる段階になると、会場では勝手に声高に叫ぶことや提灯を高く上げることは固く禁止される。作業途中に間違っ引き合ひになれば、結び目が回転し跳ね上がり、大惨事を引き起こす可能性があるからだ。引き手は緊張しながら引き合ひ開始を待つ。

結びがちょうど良い状態になると、綱の結び目に集まった両町内の建元が引き合ひ開始の合図を確認する。一人の建元を残して結び目からほかの建元がいなくなり、その最後まで残った建元が綱が結び合う瞬間に手をサッと上げ「ソラッ」と叫びながら綱から飛び降りる。それが綱引き開始の合図であり、勝負開始の瞬間である。

静寂と緊張が一気にほどこけ、地響きのような喊声が



湧き上がり、提灯が後方に大きく振られ、その動きにあわせながら「ジョウヤサノー」の聲がこだまする。



# 八 引き合ひ



## 蛇口結び

五日町/雌綱 二日町/雄綱



両方の大綱の先端がドップに出される。



サバグチ(左)を立てケンを通す。



網の下をケンを通す。そのとき、雄綱と雌綱の間に輪ができる。



ケンを立てて雄綱を雌綱に一回り巻き付ける。



先に作った輪にケンを通す。



両方から引き合うことで結び目が固く締まる。

## 森温泉

西仙北ぬく森温泉

黒森山のふところに湧き出た森の中の温泉です。露天風呂の他にもハーブ湯や薬湯、打たせ湯、サウナもある本格派の天然温泉でのんびりとお楽しみください。

新しい出会いの交流拠点



■泉質/ナトリウム、カルシウム、塩化物、硫黄温泉 ■泉温/51.6度  
■効能/きり傷、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病、動脈硬化症

〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字山北ノ沢5番地の4  
TEL0187(87)3100 FAX 0187(87)3105